



## 「山椒は小粒でもピリリ」

～ふくしま元気市民活動助成金～

ふくしま NPO ネットワークセンター 理事長 星野 珉 二

本事業は、当センターが認定 NPO を取得したことを契機に、認定 NPO 制度の枠組みを活かした新たな自主事業の目玉とすべく導入されたものです。認定 NPO では寄付者が税制優遇措置を受けられますので、こうした事業の趣旨を訴えながら、さらなるファンドレイジングをしようともくろんだ事業でもありました。本年度、3 回目の助成となります。

この助成事業の特徴の一つに、応募者に申請内容をプレゼンテーションしてもらい、100 名の市民審査員の投票によって選考するというプロセスが入っていましたが、今回は非常時下における市民活動に取り組む方々の負担も考慮して、6 名の選考委員による書類選考のみで行うことになりました。

赤間委員長の下で厳正な選考を行った結果、7 件の応募

団体の中から「コミュニティちやばたけ(団塊世代・高齢者の居場所事業)」、「市民後見サポートの会(成年後見制度の普及啓蒙活動と講演会相談会の開催)」、「福島ウインドアンサンブル(拡げよう音楽の輪～楽器と触れ合おう！音を楽しもう！)」が採択されました。

当センターの事業としては、1 団体あたり 10 万円を 3 団体程度へお渡しする小規模の事業ではありますが、少しでも地域の活力に結びつくことを期待しています。山椒は小粒でもピリリといきたいものです。併せて寄付金も募集しておりますので、そちらの方もどうぞよろしくお願い致します。



▲ 審査員による  
選考会の様子 ▼

### ふくしま元気市民活動助成金応募団体と事業名 (●印が支援決定団体)

- NPO 法人コミュニティちやばたけ 「団塊世代、高齢者の居場所事業」
  - NPO 法人市民後見サポートの会 「成年後見制度の普及啓蒙活動と講演会相談会の開催」
  - NPO 法人福島ウインドアンサンブル 「拡げよう音楽の和～楽器と触れ合おう！音を楽しもう！～」
  - NPO 法人パンダハウスを育てる会事務局 「パンダハウス 震災慰労コンサート」
  - NPO 法人アール 「パフォーマンス・アート イン 福島」
  - NPO 法人ふくしま成年後見センター 「成年後見相談業務 スキルアップ事業」
  - NPO 法人御倉町かいわいまちづくり協議会 「活動発展のための環境整備事業」
- 福島中央ロータリークラブ 未来づくり市民活動助成金応募団体と事業名
- NPO 花見山を守る会 「放射性物質除染用高圧洗浄機貸出事業」
  - NPO 法人 Fukushima Sunneyday 「Fukushima Sunneyday」
  - 置賜町スズラン通り商店街協同組合 「商店街放射能除染作業」
  - 福島県学生ネットワークしりたげ 「青空夢会議 報告書作成及び広報事業」



# ユニークな市民復興イベント「ふくしま会議」

ふくしま NPO ネットワークセンター理事 清水 修二

県立博物館長の赤坂憲雄さんが言い出しっぺで「ふくしま会議」というユニークなイベントが開催され(11.11~13日)、私も呼びかけ人の1人として参加しました。このイベントは、誰もが対等・平等な立場で「言いたいことを思いきり言おう」そして「お互いの話に耳を傾けよう」という趣旨で取り組まれました。放射能災害に見舞われて、私たちは大変苦しい日常の下に置かれています。とりわけ避難する人・しない人、農産物を作る人・食べる人といったように、本来被害者である人々同士が対立するような関係に置かれてしまう点、一番悩ましい現実です。この事態を何とか乗り越えることができないかというのが企画者の思いです。

東京からの参加を含め、実にたくさんの個人、NPOなどが手弁当で馳せ参じ、その様子はUSTREAMにより同時通訳付きで全世界に配信されました。ふくしまNPOネットワークセンターのメンバーも中心を担ってきました。「ふくしま会議」は一過性のイベントではなく、一種の「ムーヴメント」であるべきだと、準備をしながら私たちは話し合ってきました。災害復興に向けてこれから行われるいろんな学習会やイベントに「ふくしま会議」の冠をかぶせて、そこに一連の「流れ」を作ることができれば、ともするとばらばらになってしまいがちな市民活動も、力を発揮することができるのではないのでしょうか。「次のステップ」を踏み出したいものです。

## ..... 分科会レポ .....

### ◆市民活動の現場から◆

私たちは、11月12日、福大において開催された「ふくしま会議」の分科会「市民活動の現場から」を受け持つこととなり、震災以降現場で活動してきたNPOのみなさんの協力を得て大変実りの多い分科会とすることができました。

福島現場のNPOと県外の支援チームの協働で計画し、ふくふくプロジェクトの災害支援部会が中心となり分科会の内容を構成していきました。シャロームの私がコーディネーターを務め、福島から、ピーズ、まごころサービス、陽だまりハウス、ルワンダの教育を考える会、南相馬からホット悠、東京からピースポートがパネラーとなり、震災以降の活動とそこでの苦労と思いを熱く語り合い、会場からも被災現場の団体、県外の団体のみなさんの声を交え活発な意見交換がなされました。

活動分野の違い、距離の違いで活動内容に大きな違いがあり、それを理解し協力し合うことによって個々の活動の限界を超えて大きく飛躍できる可能性を実感する有意義なものとなりました。

(報告:NPO法人シャローム 大竹 隆)

### ◆放射能と向き合う◆

この分科会では、まず放射線についての基礎知識の講義、次いでチェルノブイリ調査の報告があり、続いて除染の方法についての具体的なガイダンスがありました。チェルノブイリ事故被災地の報告は参加者の強い関心を引き、土地が国有であることによる住民の移住に関する日本との違いや、避難や食品摂取に関する基準の違いなどについて質疑応答があり、予定の時間を大幅に超える熱心な議論が行われました。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター理事 清水修二)

### ◆いのち 子ども達の今~そして未来◆

県内在住のお母さん、県外で子どもの健康を心配下さっている方々と、多くの参加者がありました。またチェルノブイリ事故を経験した女医のナジェージュダさんも参加され、貴重な意見を伺うことができました。共有された意見は「保護者のストレスは子どもにも影響する」「子どもの健康のためには“保養”が有効」という2点でした。放射能への不安を抱えて暮らす私たちにとって、多くの善意と共に一歩を踏み出せる時間となりました。

(報告:子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

吉野 裕之)

### ◆自然・再生可能エネルギー◆

東日本大震災を受け、私たちは、ふくしまNPOネットワークを軸とした「ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議・復興計画部門【通称:アルカディア会議】」を立ち上げました。福島大学・星野特任教授を議長、清水副学長を座長(兼副議長)とし、東北大学・小濱教授、野口風力研究所所長・野口博士、福島大学・牧田教授、そして、NPOふくしま飛行協会・斎藤が事務総括を務めております。

アルカディア会議は「ふくしま会議(2011・11・12)」の再生可能エネルギー部門として「ふくしまモデル」の可能性を発表いたしました。「ふくしまモデル」は、「地域の人々が、地域にある再生可能エネルギーを自らの手で採取(風力・太陽光・各種バイオ)し、地域産業として標準固体電源(例:直流12Vの1次電池、又は2次電池とする)を生産、送電線に依存しないプロパンガスのように、サプライチェーン・マネジメントにより最適化され、固体で流通させ地域で利用し余剰分を他県に販売する」ポトムアップによる問題解決型モデルです。このモデルが進展するよう今後も進めてまいります。

(報告:NPO法人ふくしま飛行協会 理事長 斎藤喜章)

## 「遠野まごころネット訪問」

ふくふくプロジェクト情報センター 事務局長 早川 哲郎

年も押し迫った12月上旬、当事務局の2名が、ネットワークセンターの星野理事長、佐藤和子副理事と共に岩手県の遠野市を訪問しました。

遠野まごころネットは、遠野市を拠点に岩手県沿岸部の被災者支援活動をミッションとして設立されたNPO法人です。

対談した場所はプレハブのボランティア宿泊棟で、毛布や寝袋が並んだ中でお話を伺いました。その様子を見ただけでもボランティアが厳しい環境で活動が続いていることがわかりましたが、後で陸前高田市の被害の様子を見て、これまでの活動の厳しさや拠点を支援現場から4、50km離れた遠野市に置いた理由がわかりました。

津波による被災者は家を流され、同じ地域に建てられた仮設住宅で避難生活を送っています。その点が福島市に避難している方々との大きな違いです。そのため、まごころネットの支援は、今現在の生活支援にとどまらず、地域の復旧、復興の足がかりとなるよう、地域や地域の人々に密着した支援活動になるということです。

「ボランティアの参加者は、しだいに地域住民との人間関係が深まり、厳しい支援活動を続けられるのだと思う」と、齋藤正宏事務局長は述べていました。



↑ 駅舎が消えた大船渡駅の様子  
→ 陸前高田市のガレキの山



← 中央が齋藤正宏事務局長



← 齋藤事務局長と宿泊棟の前で

## 「東北ろうきん NPO パートナーシップ 2011」

東北労働金庫 福島県本部 松崎 和幸

東北ろうきんでは、「ボランティア活動に興味あるけど、誰に聞けば良いの、何処に行けば良いか分からない」、「ボランティア活動って、どんなことがあるの。気軽に体験できるプログラムがあれば…」。このようなニーズにお応えするべく、ふくしまNPOネットワーク様と連携し、NPO パートナーシップ 2011「気軽に安心して参加できる体験型ボランティア」の参加者を募集しました。(2011年12月22日受付終了)

今年度の参加者は、東北ろうきん全体で約160名、福島県内では約10名の方々にNPO パートナーシップ 2011を通してボランティア活動に参加いただきました。

今後もボランティア活動を通して地域社会へデビュー、新しい出会いや新たな自分探し、生き甲斐づくりを「ろうきん」がサポートします。

詳しくは、最寄のろうきん各支店または、ふくしまNPOネットワークセンターにお問い合わせください。

**ふれ愛の日。**

体験型ボランティア【参加者募集】



ボランティア活動体験期間  
2011年8月～2011年12月22日

## ～ふくしま元気市民活動助成金 支援決定3団体より～

### コミュニティ ちゃばたけ

理事長 菅野幸子

済生会春日診療所内に団塊世代、高齢者の健康増進と経験や特技を生かせる場として、「なでしこげんきサロン」を11月にオープンしました。多世代との交流により「困った時はお互い様」と助け合える人間関係やいつまでも安心して住み慣れた川俣町で生活できるような地域環境を目指していきたいと思います。

### 市民後見サポートの会

代表 遠藤喜恵

私たちは、この4月に誕生したNPOです。初年度の主たる事業は、福島市からの受託事業「市民後見人養成研修」の開催です。2ヶ月に亘って行われ11月29日に終了しました。後見制度の啓蒙、市民後見人養成研修、出前説明会等を開催し、高齢者や障がいのある方々を支援していきたいと考えています。よろしくお願い致します。

### 福島ウインドアンサンブル

事務局 武藤理恵

私たちは、今まで地域の方々に吹奏楽の素晴らしさと音楽の可能性を伝えるような活動を行ってまいりました。音楽には心を癒したり、明るく元気にしたり、生きる力や希望を与えたり、人と人の心をつなぐ力があります。今回、吹奏楽の演奏を通し、指揮や楽器を実際に体験してもらうことで、音楽の持つ力を実感していただき元気になってもらいたいと考えております。



## ～未来づくり市民活動助成金 支援決定2団体より～

### 花見山を守る会

会長 高橋真一

この会はお花見で有名になった花見山周辺の環境保全を目的に設立しましたが、東日本大震災以降は被災者支援活動を積極的に行っており、現在は福島市周辺に避難されている方々への物品支援、生活支援を行っております。渡利地区は放射線の高い地域ということもあり、放射線低減に向けた活動のため、今回の助成申込をいたしました。すでに渡利地区の小中学校での除染活動支援が具体化しており、助成金で購入した高圧洗浄機を貸し出しや除染活動支援に活用していきます。

### Fukushima Sunnyday

理事長 佐藤和子

福島に明るい日の意味を込めて、Fukushima Sunnyday を設立しました。

3.11 東日本大震災から(声を上げるのではなく自分達ができる事を楽しんでやっていこう!)をテーマに、子どものメンタルケア、保護者のコミュニティ育成、子どもたちに活かす夢を与えるための活動をしています。

福島と未来の子どもたちのために!

※NPO ネットワークセンターの佐藤和子副理事長とは別の方です。

### 編集後記

✕ 今年はいろいろな事があり、忘れることのできない一年となりました。来年は、平凡な良い年になりますよう願っております。みなさんも、よいお年を～!

(事務局・根本 靖子)

✕ 怒涛の一年が終わろうとしています。2012年は、良いことがたくさんありますようにと願うばかりです。みんなが、



健やかで穏やかな一年が出来ますように! まずは、母として頑張らねば…

(事務局・大山亜紀子)

### ●福島市より受託、運営している施設

#### ○福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

URL <http://www.f-ssc.jp> E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

#### ○まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F

TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027

<http://www.machi-fukushima.jp> E-mail [info@machi-fukushima.jp](mailto:info@machi-fukushima.jp)

### ●編集・発行:NPO 法人ふくしまNPO ネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp) URL <http://www.f-npo.jp/>